

令和 5年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 2 回 重心・要医療的ケア連絡会	参加者数	40 人	会場	伊那養護学校 寄宿舎ひまわりルーム
	日時	令和 5 年 10 月 19 日 (木) 10:30 ~ 12:30				
主 テ ー マ	<p>1 医療的ケア児等の災害対策と電源確保について</p> <p>①医療的ケア児の災害対策のポイントについて～避難先確保、電源、安否確認～</p> <p>②給電車の活用について</p> <p>③伊那市の給電車の取組について</p> <p>④給電車から医療機器等に、実際に電気を供給するデモンストレーション</p> <p>2 意見交換</p>					
	<p>1 医療的ケア児等の災害対策と電源確保について</p> <p>①医療的ケア児の災害対策のポイントについて～避難先確保、電源、安否確認～</p> <p>長野県医療的ケア児等支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動ける医ケア児の増加 ・小中学校の医ケア児の増加 ・災害時、宮城県の障がい者死亡率が高かった。宮城県は入所ではなく在宅率が高かった。 ・保護者に、災害時はどう考えているのか聞こうとすると、「自分たちはもういい」という発言がよくある。しかし、周りの人は見捨てられない、切り離すことができず、こころの傷を残す。このような言葉を言わせないように、一緒に災害時の確認をしていくことが必要である。 ・医療支援の必要な人 <p>ア 環境の変化に弱い(災害時も環境の変化の少ない、通いながれた場所が良い)</p> <p>移動が大変なため、出来たら在宅避難。または車で過ごす。</p> <p>自宅の安全確認(ハザードマップ)、本人以外の兄弟を迎えに行くことも考える。</p> <p>イ 電源が必須 給電車(プリウス) 酸素濃縮器、呼吸器1台なら4日もつと言われているが、確認が必要。</p> <p>ウ 避難にも医療の手助けが必要になる。そのため、安否情報は主治医とも共有する必要がある。</p> <p>安否確認の際、「否」であった場合の救助のルートが不明確な現状がある。</p> <p>災害マップで、リスクアセスメントを取りABCでランク付けする。</p> <p>安否情報の流れの確認、市町村の担当者から保健福祉事務所に連絡する。市町村の担当者が不明確である。</p> <p>※安否確認の優先順位は、長野県社会福祉協議会が開発した『災害福祉かんたんマップ』を活用するとよい。</p> <p>②給電車の活用について</p> <p>長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風19号の時、保護者が避難所に来ても場所の確保、電源の確保で探して歩いたという課題があった。 ・地域の医ケア児の存在、給電車(EV車、ハイブリットカー)を知ってもらうために、イベントや交流を行っている。 <p>③伊那市の給電車の取組みについて</p> <p>伊那市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の役割として、防災ボランティアセンター設置があるため、調整・つながりを形にするための仕事を行っていきたい。 ・伊那市社会福祉協議会でも給電車を活用したイベントを行った。医療的ケア児の保護者も参加され繋がるのが出来たり、給電車について多くの住民に知ってもらえた。また、自動車販売のディーラーとつながることができた。 <p>④給電車から医療機器に、実際に電気を供給するデモンストレーションを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給電車からの電力の供給方法、可能電力の確認など行う。 <p>2 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医ケア児の訪問にいった折に、訪看さんに、災害時どこに逃げればよいのか、誰と連絡とればいいのかと聞かれ即答出来なかった。日頃から意識して考えて行きたい。 					
まとめ	<p>環境の変化の少ない避難場所(通常利用している場所へ避難できる体制を整えていくこと)の確保、電源の確保、安否確認の連携の仕組みの必要性を共有できた。</p> <p>実際に給電車を使ったデモンストレーションを見る事ができた。</p>					
次回						